

■評価会議の仕組みを近畿運輸局の会議にも置くべきと考えます。

□近畿運輸局は障害当事者委員を置き進めてこられていることは評価されるべきところですが、年1回の会議意見を中央に伝えるだけでは問題解決にならない。そのため、問題を解決へ導く仕組みが必要であるため、課題別部門会議（電車、船、などモード別やテーマ別）を置いて、地域の課題としての問題解決と全国的課題を中央で審議できるよう提起できる仕組みづくりをお願いしたい。

・関係条文（移動等円滑化の進展の状況に関する評価）第五十二条の二

国は、移動等円滑化を促進するため、関係行政機関及び高齢者、障害者等、地方公共団体、施設設置管理者その他の関係者で構成する会議を設け、定期的に移動等円滑化の進展の状況を把握し、及び評価するよう努めなければならない。

■私たち抜きに私たちのことを決めないで一課題別専門部会で評価・検討が必要な事項一

□障害者の単独乗降/利用に向けて課題整理が必要

- 1) 電車の車両とホームの段差と隙間のゼロを目指す
- 2) ホーム柵の設置促進とホーム上の移動の危険性に関する課題整理を
- 3) UDタクシーの大型車の制度的利用可を ※
- 4) バスの自動スロープ化やリムジンバス等の課題解決に向けて
- 5) ホテルのバリアフリールームの設置率の見直しと一般客室のBF化
- 6) 駅無人化の東京都心で早朝に展開されると他都市や地方にも影響の恐れ
- 7) 移動の連続性における隙間の問題は、マスタープランの活用を（案内サイン、車両とホームの段差と隙間、歩行者の歩道空間）